



私たちはどのような視点で授業をみるか

ー日本の教科教育学とオーストリアの各科教授学ー

両国の研究者が同一の授業を観察した上で、観察・分析の結果を語り合います。本シンポジウムを通して授業研究の視点と方法を精査し、教科教育学研究の国際的なネットワーク化をはかります

司会/討論：草原和博・川口広美

教育学研究科B101

2018.9.28 Fri. 13:00-16:00



ウィーン大学
グラーツ大学

Alois Ecker先生

ウィーン大学歴史教授学の准教授。グラーツ大学歴史・社会・市民性教授学科の教授。専門は、歴史教授学の理論と方法。欧州の高等教育機関で教師教育研究の各種プロジェクトを主導してきた。European Studies in History Didacticsの編集長、ロンドン大学IOE、オックスフォード大学のリサーチフェロー、メキシコ国立自治大学、華東師範大学等の客員教授。

グラーツ大学



Bettina Paireder先生

グラーツ大学歴史・社会・市民性教授学科のポスドク・助手。専門は、歴史教授学と市民性教授学の国際比較研究およびその理論と方法。教室でのコミュニケーション構造にも関心を寄せる。教員養成と現職研修を担当するとともに、ウィーンの中高等学校でフランス語と歴史を教える。Netzwerk Geschichte社の著名な歴史教科書『私の歴史(Meine Geschichte)』の著者。



主催／広島大学 教育ヴィジョン研究センター (EVRI)

参加申し込み・問い合わせ先：

EVRI事務室／evri-info@hiroshima-u.ac.jp 082-424-5265 (内線5265)

自由にご参加いただけます。資料準備の都合上、事前にお知らせいただくと幸いです。

QRコードからの申し込み可→

